

流行ニュース：

<黄熱、輸入感染例、ベルギー>

厚生省は黄熱のベルギーへの輸入感染例を確認した。患者はザンビアでの休暇から戻ってきたばかりで、帰国前より当地で感染していた。彼女の帰国は11月8日。臨床検体はドイツ、ハンブルグのベルンハルト・ノクト研究所に持ちこまれ、確定と診断された。

患者の容態は現在安定しており、ベルギーの病院で治療を受けている。また、彼女が黄熱の予防接種を受けていなかったことが報告された。

今週の話題：

<世界のインフルエンザ 2000年10月1日～2001年9月30日>

2000年10月から2001年9月の間、インフルエンザの流行状況は穏やかであり、主に学童や若い成人に罹患が見られた。インフルエンザが世界中で流行した主要原因はインフルエンザA(H1N1)であった。殆どの流行においてインフルエンザBはインフルエンザAと同程度の広がりを見せたが、Aよりも優勢なのは2、3の国においてのみである。

図1: 報告されたインフルエンザウイルスのタイプとサブタイプ、2000年10月 - 2001年9月

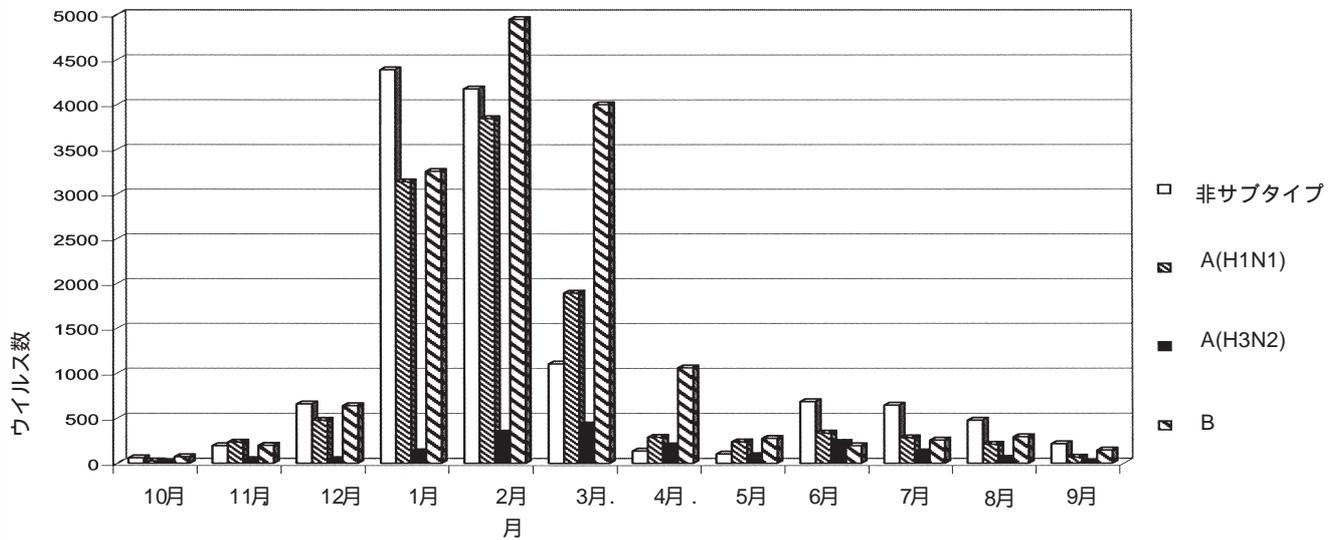
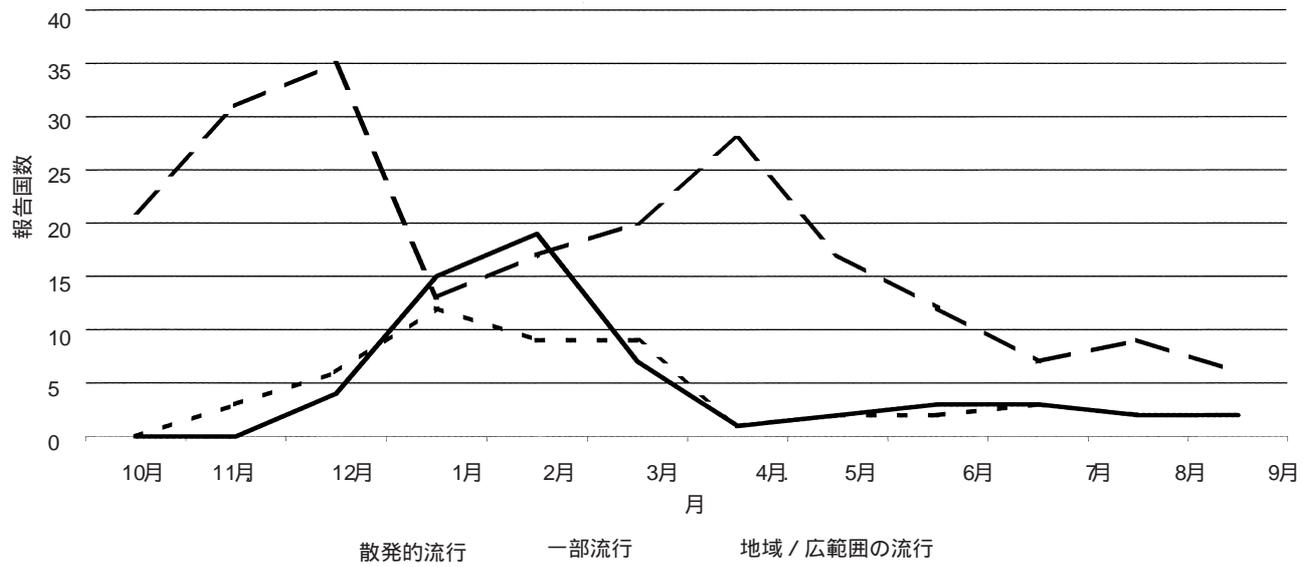


図2: インフルエンザ活動性、2000年10月 - 2001年9月



北半球における後半の季節（秋と冬）では、インフルエンザ B はもっとも頻繁に分離されたウイルスであったが、インフルエンザ A（H3N2）ウイルスは主に散発的な例においてのみ分離された。ウイルスに関連した集団発生はアフリカとアメリカにおいてのみ報告された。2000 年から 2001 年のインフルエンザの流行時期は前年より短く、また穏やかであった。流行は北半球では 1 月から 3 月、南半球では 5 月から 6 月の各々ピーク時を含む 11 月と 8 月の間にのみ報告された。インフルエンザの活動性は、特に南半球で低い。異なるウイルスタイプとサブタイプと関連するインフルエンザの活動範囲について表 1（WER 参照）および図 1、2 にそれを示す。全部で 69 の国 / 地域（アフリカ 7 カ国、アメリカ 14 カ国、アジア 12 カ国、ヨーロッパ 33 カ国、オセアニア 3 カ国）からインフルエンザ流行の時期における状況がそれぞれ報告された。

図 1：ウイルスの分離または直接検出により確認されたインフルエンザ活動のタイプと範囲、2000 年 10 月 - 2001 年 9 月（WER 参照）

<表：AFP サーベイランスとポリオ罹患率、2000 年 - 2001 年>（WER 参照）

2000 年から 2001 年の、AFP（急性弛緩性麻痺）のサーベイランスとポリオ罹患率を 2001 年 11 月 1 日付けで WHO に提出されたデータに基づいて報告している。アフリカ、アメリカ、東地中海、ヨーロッパ、東南アジア、西太平洋の 6 地域別、国別に報告されている。

流行ニュース続報：

<インフルエンザ>

ノルウェー（2001 年 11 月 10 日）：

インフルエンザの最初の一例は、11 月の最初の週に報告された。インフルエンザ A ウイルスが間接免疫蛍光法試験によりノルウェー南東部の 1 歳の男の子から検出された。

（府川晃子、柿川房子、川又敏男）